

校長室だより

ふるさと大路を愛し 夢を求めて挑戦し続ける 大路っ子プライドの育成
～ふるさと大路の輝く太陽になろう～

丹波市立大路小学校

校長通信



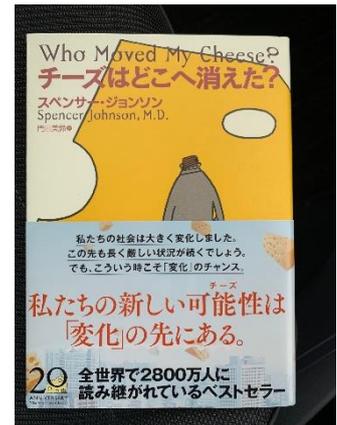
令和5年4月号

令和5年度が始まりました

校長の畑中啓太です。今年も昨年度に引き続きよろしくお願い申し上げます。

4月7日より、マスクの着用は個人の判断で行うようになりました。私の場合、3日から2日間、マスクを外しました。すると、これまで発症していなかった花粉症に、いきなりデビューしました。妻や長男たちが家で苦しんでいるのを見ていましたが、完全に他人事でした。いざ、自分になってみると、世の中の花粉症に苦しんでいる人たちの苦勞を知ることになりました。やっぱり、マスクによって自分が守られていたことを身をもって知りました。今後、様々な場面で、マスクを着用するかしないかを自分で決めていかなければなりません。お互いに事情があることを理解して取り組んでいこうと思いました。何とぞ保護者、地域の皆さんのご協力をお願いいたします。

さて、皆さんは右の本をご存じでしょうか？『チーズはどこへ消えた？』は、2000年に日本で発売されミリオンセラーになった本です。当時はミレニアム（西暦を1000年単位で区切ったもの）を迎え、ミレニアムベビーやミレニアム婚が流行りました。昨年度末に本屋さんに行き、平積みされたこの本に再会し、もう一度読んでみたいと思い購入しました。2匹のネズミと2人の小人（妖精）が、それぞれに消えたチーズを求めて自分たちの生き方を見つめなおす話になっています。エンゼルスの大谷翔平選手が愛読書に挙げたのがきっかけで再度ブームになったようです。



私はこの本の帯にひかれてもう一度読んでみようと思いました。「私たちの新しい可能性は『変化』の先にある」。この言葉は、ここ数年のコロナ禍において、自分たちの人生を再度見直してみようという思いを後押ししてくれるように思います。

これまで学校で勉強するのが当たり前で、家で自ら学習を続けるのは難しいと考えていました。しかし、一人1台のパソコンが貸与され、学校が休みになっても学習を続けられる力を子どもたちにつけることが学校の命題になりました。そんな可能性を実現するには、自分自身が変わらなければと思いついたのは、この『チーズはどこへ消えた？』を読んだからです。昨年、子どもたちに私の一日の過ごし方を紹介しました。毎朝、30分読書することをこれからも続けると、子どもたちに語り、有言実行しています。そんな日常の変化を自分で実践し、これからの学校教育を違った視点で見つめ直して、保護者や地域の皆さんに提案しようと思っています。本年度もどうかよろしくお願い致します。

文責 畑中 啓太